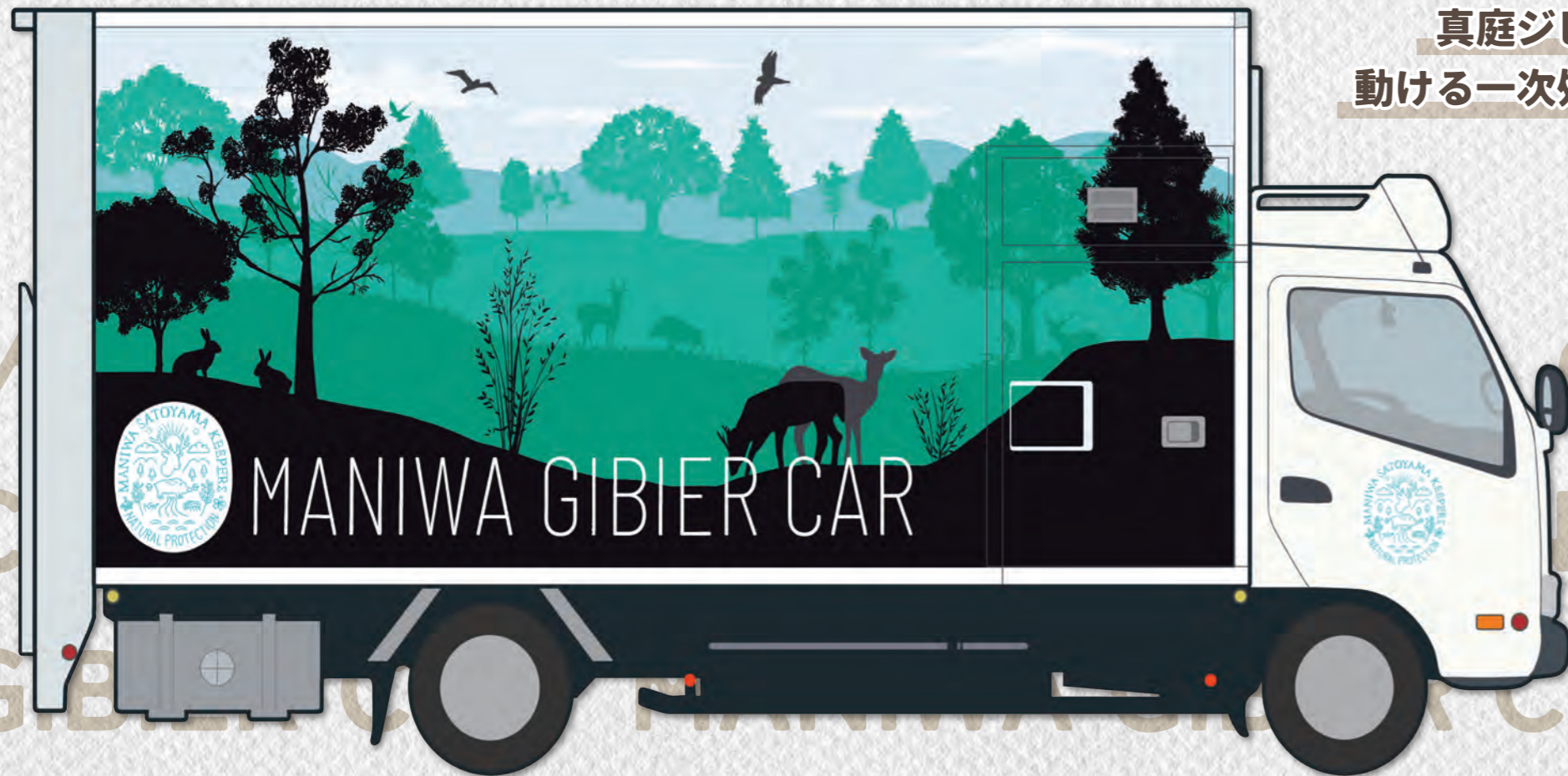


真庭ジビエカー 動ける一次処理施設



真庭市の有害鳥獣被害の現状

真庭市は、美しい山々に囲まれた中山間地域で、約8割が森林です。

しかし、人口減少と高齢化により里山の管理が難しくなり、人と獣の境界が曖昧になってきています。

その結果、猪や鹿などの有害な鳥獣が農林業に深刻な被害を与えるようになりました。特に鹿は、これまで市内での生息数が少なく、地域として食肉利用の文化が無かったために、猟師たちも積極的に捕獲することはありませんでしたが、近年急激に生息数が増えています。

ジビエカーを起点とした地域振興

真庭市は、H30年度にジビエカーを導入し、市内での鳥獣の処理と流通をワンストップで行う仕組みを作ることで、猟師たちの処分負担を減らし、効果的な捕獲を推進しています。

厄介者の鳥獣を地域資源に変えることで、特産物として売り出したり、観光客を呼び込むなど地域の活性化にも貢献しています。

ジビエカーの導入により捕獲頭数は着実に増加しているものの、市内に有害鳥獣が流入し、依然として被害減少には及んでいない現状があります。

被害を抑制するためには、今後さらなる捕獲圧の強化が求められ、一方でただ捕獲し処分するのではなく、ジビエとして有効活用することで持続可能な対策としていくことが不可欠です。

真庭ジビエカー

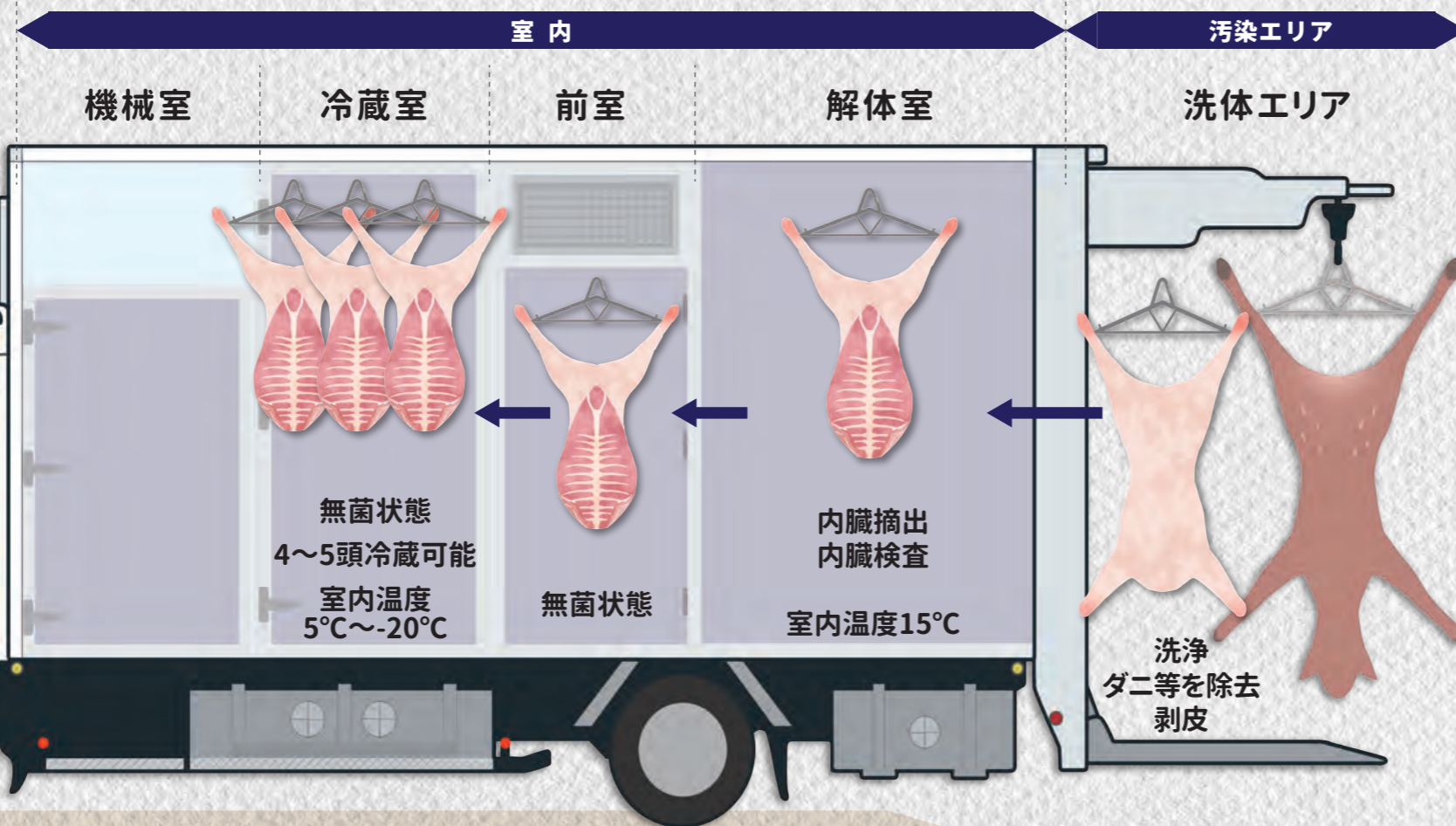


真庭市役所 産業観光部 農業振興課

〒719-3292 岡山県真庭市久世2927-2

TEL 0867-42-1031 FAX 0867-42-3907

ジビエカーによる 捕獲現場での 一次処理



真庭 ジビエカー

MANIWA GABER CAR

動ける一次処理施設

ココが スゴイ ジビエカー稼働 **ココが スゴイ** 年間処理頭数
全国No.1 600頭



マニワ ディアーズ
MANIWA Deer's

真庭市役所農業振興課の有害鳥獣対策部門には、いつも元気にジビエカーを操り、山へ谷へと奔走する素敵な女性たちがいます。その名も「MANIWA Deer's」。彼女たちは駆除された鹿の引き取りから解体までを一手に引き受け、真庭市民の生活を守る上で大切な役割を果たしています。



害獣といえども獲ったあとに処分してしまうのは辛いものです。ジビエカーがあれば、いただいた命を粗末にしない取り組みができます。

ハンターの声



被害が深刻な中、こういった取り組みはとても助かります。

農家の声

シカによる被害
年間2,695千円
(令和4年)



人里に下りてきて
食害をもたらす
シカ (有害鳥獣)

保冷車と
ジビエカーの
コンビネーション

枝肉を冷蔵状態で
二次処理施設へ
持ち込み

ジビエを
通した支援で
地域が潤います。

保冷車が
細い山道を上って
獲物を回収

保冷車とジビエカーが
市内のどこにでも
駆けつける

捕獲後、解体から搬送
までジビエカーが
ワンストップで行う

ひまわり館での
二次・三次加工



獲れたよ

シカを捕獲後、
すぐにジビエカー
へ連絡



猟友会

すぐ行くよ

すぐ運ぶよ

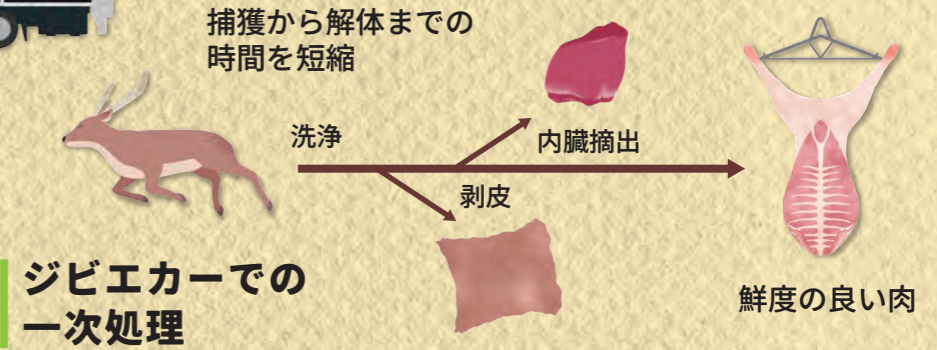
待ってるよ

迅速な一次処理で
食肉利用できるシカ
の個体が増えます。



解体スタッフ

捕獲から解体までの
時間を短縮



ジビエカーでの
一次処理